

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

当事者A	年齢[35]歳、勤続年数[10]年、現場経験年数[4]年、階級[消防士長]、同様の活動[1年に数度]、任務[隊員]
当事者B	年齢[38]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[消防司令補]、同様の活動[1年に数度]、任務[車長]
当事者C	年齢[29]歳、勤続年数[8]年、現場経験年数[1]年、階級[消防副士長]、同様の活動[1年に数度]、任務[]
その他 (当事者が4人以上の場合)	当事者D、年齢33歳、勤続9年、現場経験2年、階級 消防副士長、1年に数度の活動、隊員

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者B	ハンドルに牽引の為のワイヤー及び可搬式ウインチのセッティングを指示した。	
経過2	当事者A、C、D	指示を受け、ハンドルにワイヤーを掛け、可搬式ウインチのセッティングを行なう。	車両からアンカーまでの距離は約25m
経過3	当事者A、C、D	車長の指揮により、可搬式ウインチの操作を行なう。捜査員は当事者C、ワイヤー等の安全管理をA,Dにて実施。	
経過4	当事者B	エアバックの破裂によりハンドル牽引の活動に「停止」の指示を出す。	ハンドルの角度がよかった為、ケガ無し
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

たまたま、負傷事故になった。

心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	はい

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c . 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d . 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

装備・資機材について

e . 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

活動環境について

f . 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g . 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h . 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

指揮・管理について

i . 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k . 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	はい

その他

l . その他の理由があった。

はい：車両が高エネルギーを受けていたにもかかわらず、エアバックが作動しなかった。
--

【事故発生後の取り組みについて】



注意力欠如、焦り等の対策について

装備・資機材の対策について

活動環境の対策について

指揮・情報伝達の対策について